



# 薫小だより

「気づき・考え・行動する 薫の子」



郡山市立薫小学校  
学校便り No.20  
令和5年11月13日  
文責：校長 齋藤和彦



## ◆◆ 校長室より ◆◆

### 子どもたちの車登校を考える

◇ 「車登校を考える」 ～お子さんと保護者が一緒になって考えてほしいテーマです。少々、耳の痛い内容も含まれますが、ご批判あることも承知の上で発行いたします。

先日、【至急】車送迎時の事故防止徹底の注意喚起メールを配信しました。

登下校および児童クラブ送迎、また、学校施設利用団体等、学校への児童車送迎が大変多くなっている近年の現状があります。

これは、震災以降の放射能不安.. 新型コロナ感染症不安.. さらに地球沸騰化による猛暑が「車登校の理由」に拍車をかけ続けていることもその要因の一つに考えられます。「わが子に何かあったらどうしてくれるんですか」一概に「車登校の禁止」を原則化することが難しい時代になっています。しかしながら、車登校の多くは、様々な理由によるねぼう・忘れ物・朝の用意をだらだらと.. 等々も現状です。

薫小学校の登下校は、『徒歩』が原則です。

市内には毎朝2km 以上もの路を歩く学校もありますが、本校の学区は、ほぼ等心円状(正方形)に比較的短い距離で通える通学環境です。

“車送迎”は徐々に伝染傾向をたどります。多くなると.. マナーの悪さ(このくらいなら) (あの車もやってる) (うちだけじゃない) があたりまえのように常態化してきます。

### 児童事故は絶対に起こしてはなりません。

＜やむを得ず車送迎する場合のマナー徹底＞

- 路肩乗降は必ず歩道側から
- 反対車線への急なリターン厳禁
- 北側駐車場の児童往来(必ず保護者そばに)
- 北側駐車場からは「右折禁止」(一方通行)
- 校地周辺の駐停車は厳禁(特に下校時)
- 校地周辺の駐停車状況への一般通行車から迷惑苦情があります。(特に荒天時)

※ けがや早退、その他の理由による車送迎は、学校に相談の上、マナーを守り安全第一でお願いします。(特別な支援による理由を含みます)

校地周辺での「児童事故の絶無」と同時に「徒歩登校のすすめ」を願います。



雨の日は傘で

※相田みつを(文化出版局)に引用許可了承を得ています

### 『負ける練習』～相田みつを～ 【『車登校』⇔『負ける練習』】を考える

柔道の基本は、受け身。受け身とは、投げ飛ばされる練習。人に前で叩きつけられる練習。人の前で転ぶ練習。人の前で負ける練習です。つまり、人の前で失敗をしたり、恥をさらけ出す練習です。自分の格好悪さを多くの人の前で無様にさらけ出す練習。それが受け身。

長い人生には、格好良く勝つことよりも、無様に負けたり、だらしく恥をさらけ出すことのほうがはるかに多いのです。

そして、負け方や受け身の本当に身に付いた人間が、人の悲しみや苦しみに耐えて、人の胸の痛みを心の底から理解できる優しくあたたかい人間になれるのです。

～それでは、「負ける練習」とは具体的にはどうするのか?例えば、寝坊した子供が学校を遅刻しそうになると、親は車に乗せて校門のそばまで送っていきますよね。我が子に「遅刻して恥ずかしい思いをさせたくない」という親心なのですが、それは目先の・その場限りのプラスであって、長い将来のためにはマイナスなのです。そういう時には親は、車などで送らないで遅刻させるのです。そして、遅刻して教室に入っていくという恥ずかしい体験を子ども自身にさせることです。先生に問いただされるかもしれません。友達に笑われるかもしれません。

しかしそれは、寝坊して遅刻した子供自身の責任として、子供自身に体で受け止めさせることです。そして、遅刻するとこんなに恥をかくということの子供自身に体験させることが大事です。子供の忘れ物を親がせつせと学校に届けている場合もよくありますが同じです。日常生活の中で、そういうあたりまえの体験を子供にさせないで、恥ずかしいこと、骨の折れることは、みんな親が代行してしまうから、子供自身に苦しさに耐える心の根ができないのです。

「車に乗せていけば遅刻しない。忘れ物を届けてやれば恥をかかないですむ」そこを『じっと我慢の親』になって、あえて子供に恥の体験をさせる。それが、『負ける練習』です。

負ける練習・失敗の練習・恥をさらす練習をたっぷりさせておくことです。そうして、負けに強い人間・失敗に強い人間・恥をさらすことを恐れない人間に育ててやるのが、子供の一生を通しては、『しあわせ』なのではないでしょうか。(前後～略～)

※【車登校と負ける練習】校長の私も同感です。